

オンラインでリアルタイム授業を実施している大学は満足度高い

SFC教員および学生へのアンケート結果（2020年5月12～18日実施）

出典：慶應義塾大学 環境情報学部 准教授 植原啓介 実施アンケート

Executive Summary

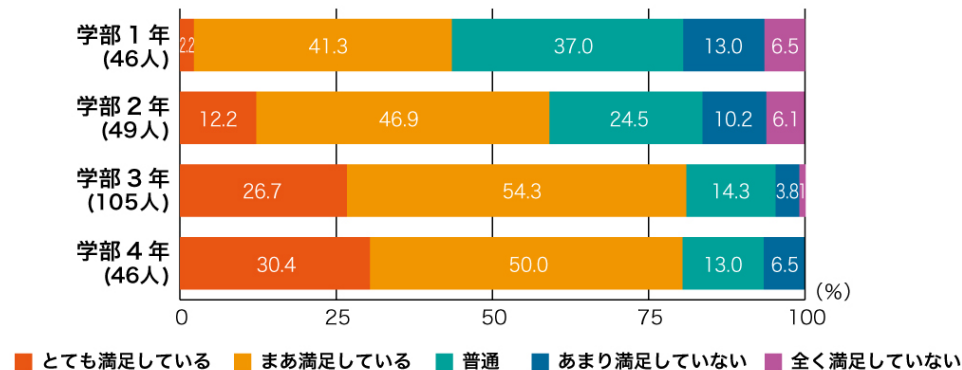
- オンライン授業に対しては教員より学生の方が好意的。
- オンライン授業に向いている授業と不向きな授業があり、大規模な授業ほどオンライン向き。
- SFCにおいては殆どの科目がライブのオンライン授業を行っており、加えてオンデマンドや資料提供も行っている。
- 学生と教員間の意思疎通を不安視しているという意見が多い反面、チャットを使うことで普段よりコミュニケーションが活発になったという意見も多い。
- 教員、学生ともに、学生の通信環境を不安視している。
- 学生は友人とのコミュニケーションに苦慮している。
- 教員の約半数、学生の約7割が、平常時のオンライン授業の継続を希望している。

ただし、学年によって「満足度」は異なる

東京大学 7割近くがオンライン授業に満足

→1年生だけ「初回授業のみ対面授業」実施等で満足度は大きく変わったのでは？

(図3) 学年別オンライン授業への満足度



オンライン授業の良い点・悪い点は？（学生）

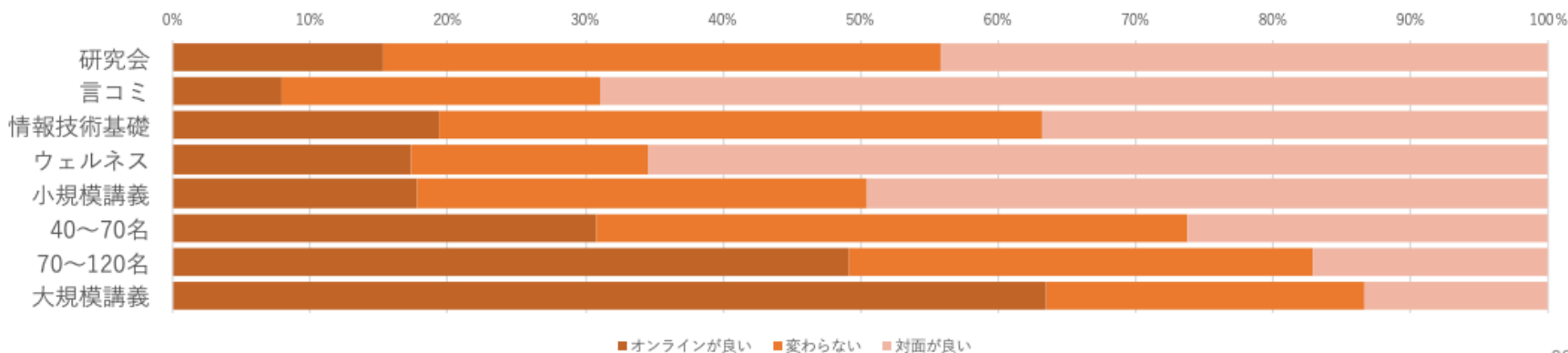
オンライン授業の良い点は？

- 周りに気を使わないですむ。集中力が上がる。
- 言語の授業で周りを気にすること無く発声してみることができる。
- 他キャンパスの授業を受けやすい。
- チャットの方が質問・発言がしやすい。
- 授業の流れを遮らずにTA/SAに答えてもらえる。
- 交通費を節約できる。
- 通学時間を睡眠や予習復習に充てることができる。
- 地理的制約がないので働きながら受講できる。
- 化粧やファッションを気にする必要がなくなった。

困っていることは？

- 教員の不慣れで授業が進まない。（操作、チャットに気づかないなど。）
- せっかくのオンラインなので、繰り返し学習できるようにして欲しい。
- 受講場所（部屋）の確保が難しい。
- ツールが安定しない。
- オンライン授業を受けながらPCでノートを取るのが大変。
- 体育は広いところで体を動かしたいが、場所の確保が難しい。
- メディアに行けず、調べ物が難しい。

授業毎の学習効果



今後、従来の一方通行の大規模授業はオンラインで、
（対面の）少人数授業を増やす方向に

高い満足度を実現させた学生のサポート

SFCーSA、TAが各授業で教員サポート、平時からオンライン授業実施

東京大学 コロナ対応

4月16日～ 各授業の簡易的なサポートを学生が行うクラスサポーター制度

5月1日～ ポータルサイトのチャットサポートの有人対応を学生が行うコモンサポーター制度

→学生のアルバイトにもつながり、一石二鳥

②学習/研究環境への影響 特に研究者（大学院生）に大きな影響

約6割の学生や研究者
図書館休館で研究に「非常に重大な影響がある」

※「最終集計結果（単純集計表）」もぜひご覧ください。

1. 調査結果のポイント

① 研究への影響

- ✓図書館休館で研究に「非常に重大な影響がある」人が約6割
- ✓卒論・修論・博論提出に「間に合わない」学生が約7割

② 利用している代替手段

- ✓必要な文献を「私費で購入」が6割強
- ✓「オンラインデータベース・電子ジャーナル」の利用が約6割

③ 研究を続けるために望む支援

- ✓「デジタル化資料の公開範囲拡大」を望む人が7割超
- ✓非来館型の貸出サービスを望む人が7割超

2

出典：「図書館休館対策プロジェクト」調査

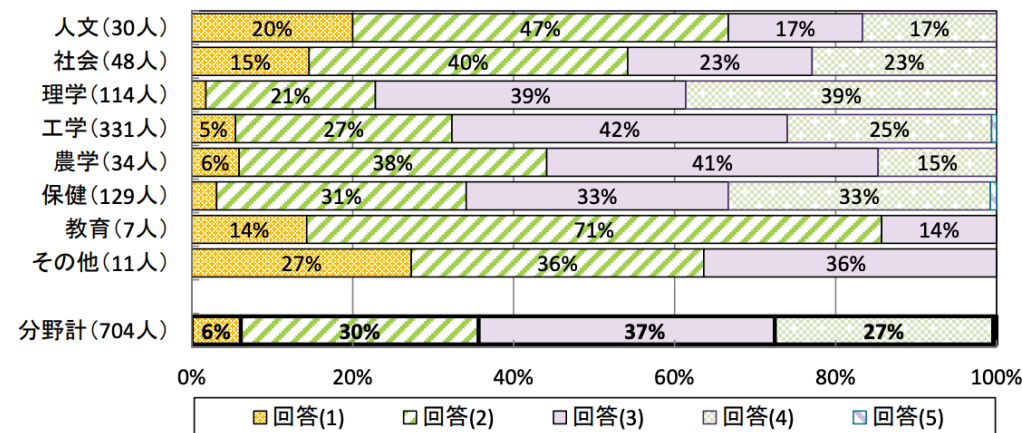
国会図書館の毎年納品される書籍等のデジタル化率約5%

73%の博士課程学生が
「博士号の取得が遅れる可能性」

[問21]博士課程在学中の方のみにお聞きます。新型コロナウイルス流行により、博士の取得の時期が遅れる可能性がありますか

- 回答(1) 博士の取得がすでに遅れる予定だ(あるいはすでに遅れた)
- 回答(2) 博士の取得が遅れる可能性がある
- 回答(3) 博士の取得が遅れる可能性がいくらかある
- 回答(4) 博士の取得が遅れる可能性はない
- 回答(5) すでに博士号を取得しており、関係が無い(この3月に取得した方を含む)

図表 39 専攻分野別:[問 21]の回答割合(博士課程在籍者)



学習の質に対してほとんど政府支援が行われず

日本若者協議会 提言	政府対応
オンラインデータベース・電子ジャーナル、電子書籍の拡充	(余裕のある) 一部大学が対応
図書館や実験施設の一部開放、非来館型の貸出サービス	一部大学が対応
国家試験の受験資格取得のために必要な実習等の規制緩和	○
科研費及び学振等の研究費への柔軟な対応 (次年度への繰り越し等)	○
Wi-Fi環境、デバイス等への金銭的支援 (学生だけではなく、非常勤講師にも)	△
職員やTA費用などの学習サポート	×

今後に向けて

- ・ 知識習得の場である大規模授業はオンラインで代替可能（図書館のデジタル化も促進必要）
- ・ （大学の価値向上 & 感染症対策として）少人数授業の割合増加

- ・ 標準単位数の削減（課題量が多いのではなく、授業数が多い）

※現状124単位以上 = 1学期10コマ程度必要、米国では、1学期の履修科目数は多くても5つ。一つの科目が週に2～3回行われ、その分学生は限られた授業に集中できる

- ・ コミュニティとしての機能はオンラインのみだと難しい（サークル活動は時間と共に復活）

※「留学」もオンラインである程度実現可能になるが、やはり現地での交流が留学の大きな価値

→感染症対策と学習/コミュニティ形成の質の両立ーハイブリッド型の実施

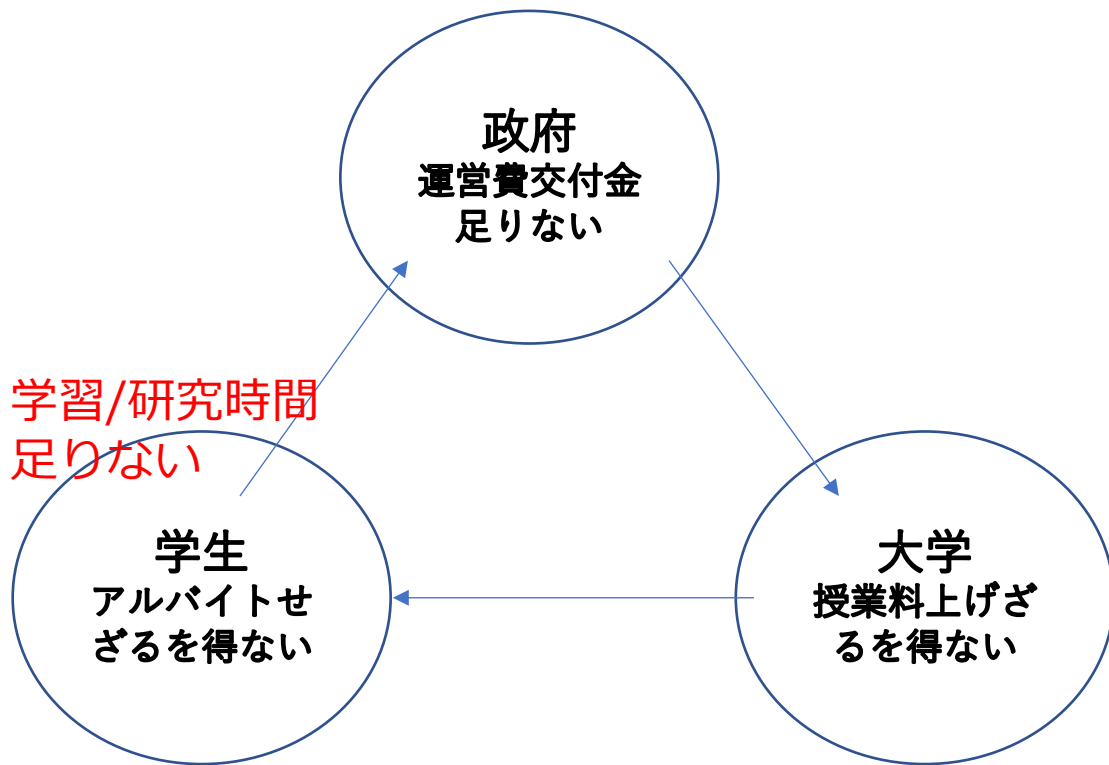
課題：

- ・ 感染対策費（消毒液等の消耗品や人件費等）、デジタル対応費
- ・ 教員/事務職員数が足りない
- ・ 標準単位数の規制緩和

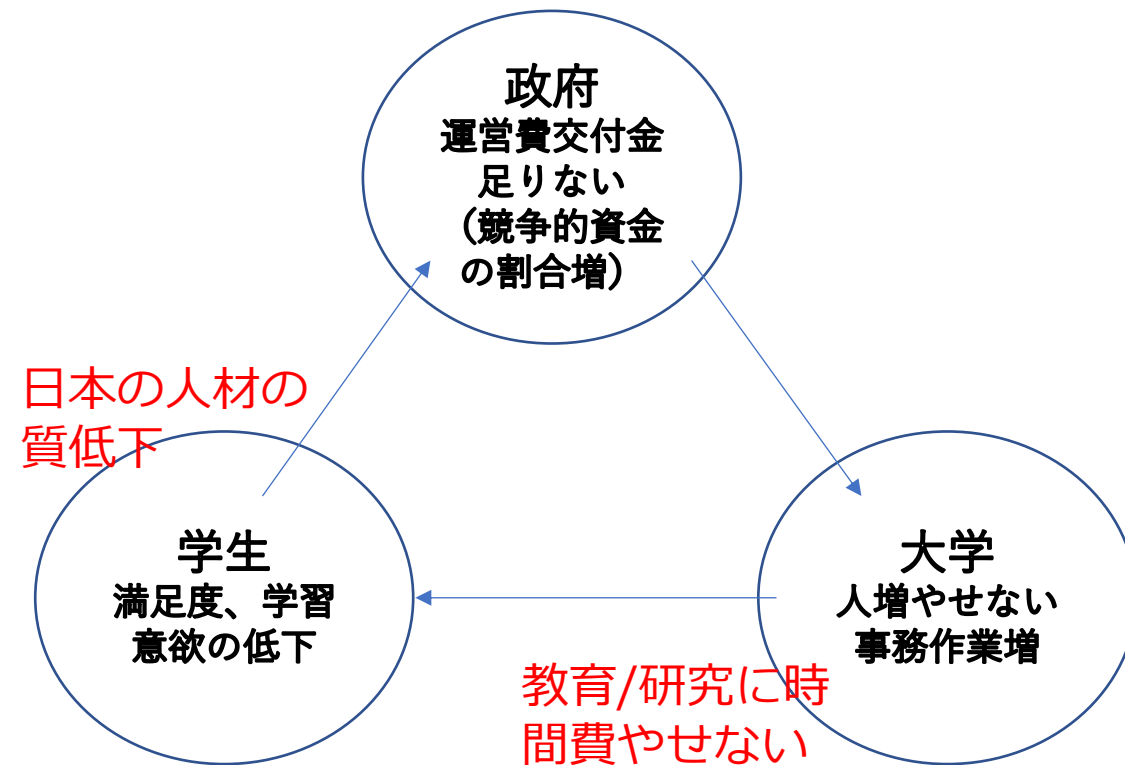
※初等中等教育に対しては、令和2年度第2次補正予算で各学校に感染症対策費用を措置（405億円）する一方、大学には予算措置なし（ただでさえ大学病院の収入減で、ポスト削減の懸念＝海外大学では教員や博士課程学生の募集停止を既に着手）

2つの悪循環

金銭的課題



人間的課題

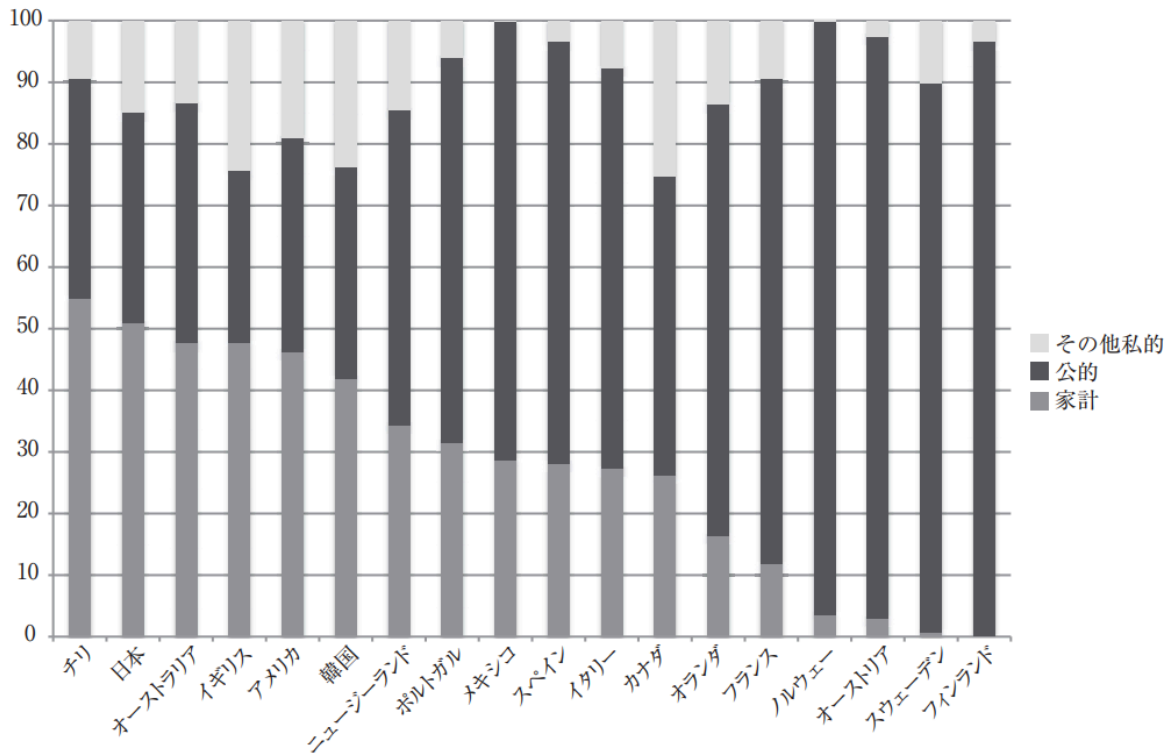


世界的にも貧弱な「平時」の教育予算（教育への公的支出、日本はOECD35か国中最下位）

高等教育の授業料 & 家計負担が先進国の中で最も高い国の一つ

大学の学生・職員数比率が低い

図2 高等教育費の負担割合



出所：OECD (2017) Education at a Glance 2017

出典：高等教育費負担の国際比較と日本の課題（小林雅之）

海外のトップレベル大学と比較すると日本の有力大学の職員数は少ない。

[TIMES 世界トップ200大学における上位大学の学生数と教職員数]

TIMESラ ンキング	大学名	学生数/ 教員数	学生数/ 職員数	教員数/ 職員数
1	ハーバード大学(米)	4.36	1.39	0.32
2	イエール大学(米)	3.74	1.13	0.30
3	ケンブリッジ大学(英)	4.66	4.22	0.91
4	オックスフォード大学(英)	4.45	4.08	0.92
5	カリフォルニア工科大学(米)	5.56	0.79	0.14
5大学平均		4.37	2.01	0.46

TIMESラ ンキング	大学名	学生数/ 教員数	学生数/ 職員数	教員数/ 職員数
19	東京大学	5.17	7.39	1.43
25	京都大学	7.81	8.86	1.13
44	大阪大学	6.43	10.49	1.63
3大学平均		6.19	8.66	1.40

出典) 東京大学国際連携本部国際企画部「世界の有力大学の国際化の動向」調査報告書(2007)

注) The Times Higher Educationの大学ランキングにおける上位15大学の学生数と教員数であり、職員数は各大学のwebサイトで公表されている数値である。(平成20年度科学技術人材養成等委託事業委託業務成果報告書(日本物理学会キャリア支援センター)より)

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/reform/wg7/290421/shiryoyu1-4.pdf>

事務作業に時間を取られる大学教員

大学教員の1週間の労働時間のうち、授業時間の平均が13時間程度、研究時間の平均も13時間程度、その他の業務に費やす時間は23時間程度（プラス会議+委員会で6時間程度）

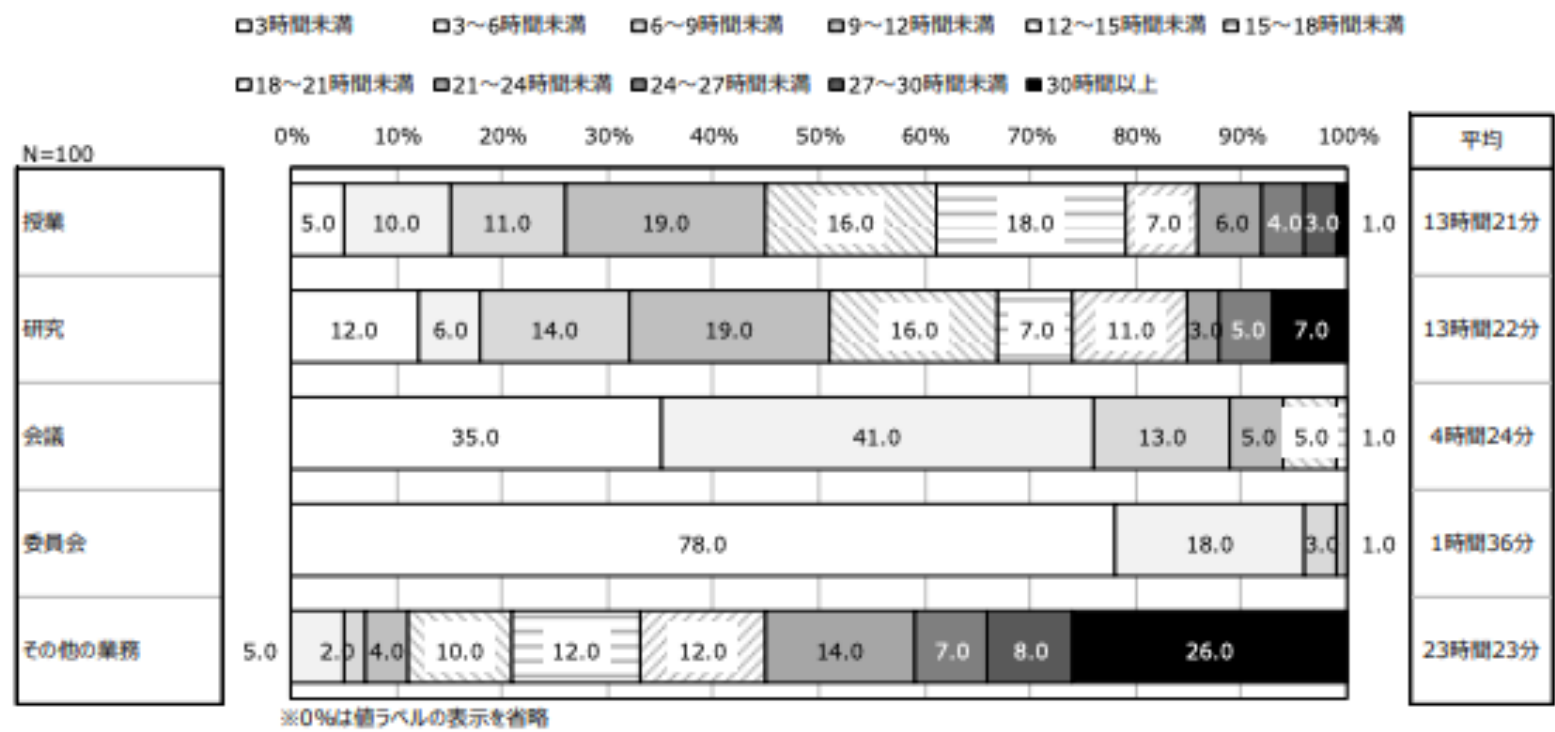


図 1： 1 週間当たりの各業務に費やす時間の割合（全体値）

出典：「先導的大学改革推進委託事業」教育と研究の充実に資する大学運営業務の効率化と教職協働の実態調査 【調査報告書】

低い大学教育の達成度

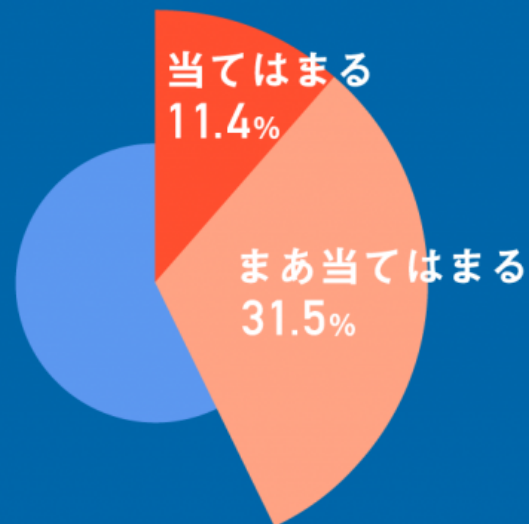
特に低学年では、1学期に10コマ以上取る学生が大半であるため、予習等が必要な負担の大きい授業は敬遠されがち。

結果的に、教養が身に付かず、大学教育への達成度も高くない。

東大では前期教養課程で後期課程の授業を理解するだけの能力や前提となる知識が身に付かなかったと答えた学生が42.9%（2018年大学教育の達成度調査報告書より）

（図2）大学教育の達成度調査（2018年度）より抜粋

前期課程では、後期課程
の授業を理解するだけの
能力や前提となる知識が
身につかなかった



今後必要な支援策ー長期的なwithコロナを前提に学習環境の構築

金銭的な支援

- ・新1年生も含めた困窮学生に対する授業料減免、支援金給付
- ・給付型奨学金（修学支援新制度）の拡充
- ・大学院生への給付型奨学金適用（修学支援新制度の適用拡大）
- ・コロナによって修了が遅れる学部・大学院生の次学期分の授業料免除
- ・学振特別研究員・海外特別研究員の採用期間の延長、それに伴う金銭的支援（○）
- ・運営交付金/私学助成金の増額（コロナ対策費用含む）

人的な支援&質向上

- ・大学での少人数授業の割合増加→大学教職員、**TAの増員**（教員の負担軽減や大学院生にとっては将来の教授方法のトレーニングにもつながる）
- ・デジタル化資料の拡充
- ・標準単位数の削減、入学定員の緩和



9月9日財務省に要望